

事務執行状況点検評価報告書

平成22年度事務事業分

紀美野町教育委員会

はじめに

紀美野町教育委員会では、本町長期総合計画において、“豊かな教育をめざすまちづくり”を支える柱に、「学校教育を充実し、次世代を育てる」と「文化・スポーツ活動を通して社会教育を振興する」を掲げ、それぞれ具体的な事務事業に取り組んでいる。

これらの事務事業を推進するに当たり、随時点検評価を行い、その結果に関し、報告書を作成した。

平成22年度に実施した事業について次のとおり点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめた。

平成23年10月

紀美野町教育委員会

点検・評価等について

I. 実施根拠

点検・評価の実施については、教育委員会の責任の明確化や体制の充実等を図るべく、紀美野町教育委員会評価等実施要綱に基づき実施した。

II. 評価等の対象

評価の対象は総合計画に基づいて、前年度に実施した事業のうち主なものについて評価をいただいた。

III. 点検、評価の方法

点検及び評価に際し、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、それぞれの項目別に5段階評価する「5:的確」「4:良好」「3:妥当」「2:要検討」「1:要改善」で表した。評価の今後の方向性として「廃止」「見直し」「休止」「継続」「拡大」の5つの方向性で示した。評価の客観性を確保するため、教育委員会評価委員会を設け、外部の立場から評価方法や観点などについてご意見ご助言をいただいた。

弓庭 武彦

評価委員の委員氏名

松本 守信

堀 有子

IV. 評価等の結果

教育委員会の総合評価の結果は、次のとおりである。

(1) 評価の判定別事務事業数

評 価	5	的 確	十分に成果を発揮している	2
	4	良 好	ほぼ成果を発揮している	39
	3	妥 当	おおむね成果が上がっている	6
	2	要検討	成果が上がっているとは言えず要検討	1
	1	要改善	成果がほとんど上がっておらず見直しが必要	0

(2) 今後の方向性別事務事業数

方 向	廃止	見直し	休 止	継 続	拡 大
事業数	1	0	2	44	1

V. まとめ

今後の事務事業について、事務事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務事業の遂行に当たる必要がある。児童数・生徒数が減少する中で、学校の教育環境の充実に努める。また、厳しい経済状況が続く中、行財政改革により財政の健全化が求められており、今後実施される事業の優先度や緊急度等を勘案し、計画的、重点的な事業実施に努める必要がある。

点検評価結果

1. 教育委員会事業

目的：教育行政について審議をはかり教育行政の具体的な施策推進を図る。

内容：教育委員会の委員の構成は、性別では男性 4 名、女性 1 名となっている。

教育委員会の開催・学校訪問、実態研修会情報交換会等の参加。町内小中学校の各研究会に参加し成果の状況確認をする。

委員 1 名が任期満了となり新たに改選された。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：教科書の採択や学校の統廃合など重大事案に対しては大いに存在感を発揮していただいておりますが、平時に於いてはややその活動内容が見えにくいように感じます。教育委員会の開催頻度の増加も課題であるかと思いますが、町内小中学校各校でそれぞれ特色ある行事、研究会が行われる際には視察をしていただいて、成果を見ていただけるよう積極的な企画をお願いします。又、活動状況や定例会での審議内容等、可能な範囲で発信していただければと思います。

課題・方向性：委員会への上程内容及び委員の日程等を調整し、必要に応じて委員会を開催する。

2. ALT 設置事業

目的：中学校・小学校で英語を教え、地域住民との交流を深めることにより、外国語教育の充実と地域の国際交流の進展を図る。

内容：中学校における外国語教育の補助、小学校における国際理解教育の補助など

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：ALT による小中学校における英語指導により、英語でのコミュニケーション能力が向上するとともに子どもたちの外国文化への関心も高まっていると思います。今後もより一層学校のニーズに応えられるよう、配置された 2 名のスタッフを有効活用していただきたいと思います。ただ人材選定の権限が当町側に無く、ミスマッチが起きる恐れのある事が懸念されます。ネイティブの方を招聘して英語を教わる事の難しさを感じます。

課題・方向性：JET を通じて採用した場合、最長で 5 年しか任用することができない。
優秀な人材を当方で選定することができない
小学校での授業数が増えれば、現在の 2 名体制で対応できるかどうか。

3. 適応指導事業（不登校児童）

目的：不登校等の児童生徒並びにその保護者に対する教育相談による支援と、引きこもりからの改善途上にある別室登校の児童生徒の学習支援を図る。

内容：県教育委員会より野上中学校並びに美里中学校へスクールカウンセラー 1 名が配置され、年間 45 日の教育相談日を設けた。教育相談は保護者並びに学級担任等に対する間接的

なものと、別室登校生徒への直接的なカウンセリングを実施している。また、国の交付金措置による学校教育支援員を4小中学校に配置し、そのうち3小中学校では、別室登校児童生徒に対する個別的な学習保障として活用した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本町では不登校生徒が減少傾向にあるとの事で、事業の成果が認められます。課題を抱える児童生徒や保護者、また学級担任にとって、スクールカウンセラーや学校教育支援員の存在は大変心強く、大きな役割を果たしていると思います。

ただ、スクールカウンセラーの人材の質的バラつき、量的不足などの課題が多い事業でもあると思います。才能だけでなく人格、人徳を備えた人材を当町に確保できるような方策は考えられないものでしょうか。

課題・方向性：スクールカウンセラー配置に係る国の補助金が削減され、スクールカウンセラーの教育相談日・時間が減少傾向にある。また、これまでの事例によると、不登校等のきっかけとなる気質は小学校の段階で表れている。町内小学校の保護者からの相談依頼が少なく、小学校の保護者への啓発を保護者会 PTA 活動などを通し積極的に図る。また、学校教育支援員の活用面では、資質の向上を図るための研修等の実施に県教育委員会をはじめ、近隣市町教育委員会と共同での実施等を働きかけていく必要がある。

4. 研究指定校事業

目的：学校全体及び教師による教科・領域の指導方法や効果の向上を図る。

内容：県「ことばの力向上推進事業」の主旨に依拠して、本町では、下神野小学校と美里中学校で小中連携による取り組みを実施した。美里中学校では、数年に渡りコミュニケーション能力の育成を実践してきているため、小学校段階における基礎的な取組を下神野小学校には期待した。ここ数年、すべての学校では独自のテーマを設定して継続的に研究実践を続けている。下神野小学校においても、独自の方向性を持って実践研究を継続してきているため、若干方向転換に苦慮する面があった。

判定： 3 今後の方向性：継続

評価委員の意見：指定研究の積み重ねが、その学校としての教育力を一歩ずつ押し上げて来たと思います。学校の教育力のアップは当然に生徒の学習意欲アップに繋がっていたと思います。国からの補助が無くなった中で県の指定を活かして事業を継続された事に敬意を表します。町からも経費面で補助など支援していただいていることは心強いです。

課題・方向性：平成23年度には、これまでの全国学力学習状況調査結果・分析から、県が『学力向上推進事業（仮称）』を立ち上げる。学力を向上させる実践は、あらゆる学校のテーマでもあり、本町学校教育基本の柱の一つである。例えば、学力向上を図る取り組みを「指定研究」として県の認可を受けて町経費の補助を図り、研究の充実を推進するという戦略が必要である。

5. 学校施設整備事業

目的：老朽化が進む管内の小中学校施設において、児童生徒はじめ、教職員等が最適な学校環境の中で生活を送れるよう、損傷箇所や危険箇所等の改修、修復等を行う。

内容：各小中学校施設の、屋上防水工事をはじめ、施設機器、教室床等の改修、修繕を実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：これまで各校の耐震診断、耐震補強を進めてこられました。これから先は東日本大震災の教訓を踏まえて、学校建屋屋内の地震対策を進められ、児童生徒をはじめ教職員等が安心できる、安全な学校施設整備に万全を期していただきますようお願いいたします。

課題・方向性：今後児童生徒の減少に伴い、休廃校施設が生じることも考え、各小中学校施設への設備改修・修繕が必要です。また、校舎等の外部の地震対策は完了しているものの、屋内地震対策が不十分であるため、老朽修繕と並行し、屋内地震対策も進めていく必要があります。

6. 職場体験

目的：中学生が、それまでに培ってきた勤労観・職業観を、体験により確かなものとして実感させ、社会人・職業人として自立していく力を身につけさせる。

内容：地域の事業所において3日間の職業体験を行いながら、社会のしくみや大人として身に付けなければならない知識・態度や礼儀・マナーを学び、社会の一員として自分を生かすための目標を見出す。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：他の地域でも様々な職業体験を行っていますが、とても有益な事業であると考えます。職業体験を組み入れる事により、授業時間が減少する事を懸念する保護者も必ず出てくると思いますが、生徒の社会性を育む効用は大きく、その効果は後年になって現れるものであると思います。今年度、県からの補助が無くなった中でも、この事業の意義を関係各位が認識されて事業を継続された事に敬意を表します。

課題・方向性：（県）の1/2補助が減額されたことを受け、傷害保険への加入については、学校安全会の保障を適応させ、また、自賠責保険については、県の補助を適応することで、例年通り実施できた（平成22年度で県費補助終了）。平成23年度以降の自賠責保険については、予算を置いて対応する必要がある。各中学校の生徒数が減少していく中にあり、事業所は充足しているが、生徒の希望職種と受入れ事業所とのギャップは解消されていない。生徒が、働くことへの理解や社会との関連をとらえる機会とできるように、各学校では事前・事後の指導にも重点を置き、生徒のキャリア形成（人生設計を考える視点）を図ることが課題である。

7. 就学援助事業

目的：児童生徒の教育機会の均等を保障し、義務教育の円滑な実施を図る。

内容：教育委員会へ、学校を通じて保護者より申請書が提出され、審査の上認定を行う。認定された保護者に、学用品費等の就学上必要な経費の一部を援助支給する。また、児童生徒の修学旅行にかかる経費を援助支給する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：近年、就学援助の申請者数が増加しています。制度の周知徹底を図り、支援を必要とする家庭に対しては適切な運用をされるよう望みます。個人情報管理に配慮をお願いします。

課題・方向性：年々、認定件数・援助費は増加しているが適切な運用をしていきたい。

8. 青少年健全育成事業

目的：青少年の豊かな情操と優れた創造性・社会性を育て、地域社会全体で次世代を担う青少年の健全育成を図る。

内容：青少年の健全育成を目的とした各団体へ補助金を支出し、それぞれの育成事業を補助する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：諸団体において、それぞれの立場で育成事業に努めていただいております。今後も関係機関・団体に中心となっただき、学校・家庭・地域が連携して、町ぐるみで育てて行くという意識を持って健全育成に努めていただきたいと思います。

課題・方向性：会員の減少、委員の高齢化による団体の弱体化が進む中、今後会員の勧誘等の推進を含め各団体の活動内容を点検し、継続的な活動ができるよう協議を行っていく。

9. 児童館利用事業

目的：児童に健全な遊びの場を与え、健康の増進、情操を豊かにする。

内容：児童に遊び場を提供して町内5箇所で（中央児童館（月曜日～土曜日）・小畑児童館・動木児童館・吉野児童館・吉見児童館（水曜日・土曜日））開館した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：夫婦共稼ぎ、少子化・核家族化が進む中、安心・安全な子どもたちの居場所が複数個所で確保されていて意義ある事業だと思えます。今後も多くの子どもたちの居場所として継続をお願いしたいと思います。

課題・方向性：子どもが減少する中でより良い環境づくりに努める。

10. 学童保育

目的：児童の放課後の生活を保護者に代わって安全に過ごさせることであり、保護者の代わりに家庭的機能の補充をしながら、「生活」の場を提供し、「遊び」及び「生活」を通して子どもの健全育成を図る。

内容：放課後の児童を保護者に代わって「勉強」「遊び」を教えて自宅と同様な場を提供している。町内2箇所（野上学童・下神野学童）について、祝日を除き（月）～（金）まで開所した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保護者の就労環境の変化に対応した、時宜にかなない今後益々必要とされる事業であると思えます。増加する希望者への対応拡大についても検討を要するのではな

いでしょうか。

課題・方向性：施設内での勉強、遊びの場の充実と野外での活動を今後多く取り入れる。

1 1. 夢づくり事業

目的：子どもたちの文化的な学習活動や地域の文化財産を活用した学習活動やそれに係る実践研究推進等、各学校の課題に応じた独自の教育実践及び実践研究を推進する。

内容：かなえたい夢や新しい自分を発見する機会を持つことで、子どもたちの挑戦する心を育成する各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各校で独自に事業を企画して行う場合、複数校が共同企画で事業を行う場合など様々なバリエーションが考えられます。経費支出を各校に委託していることで各校のプロデュース力を発揮する事業として大いに成果を上げていると思います。本物の芸術やその道の達人の話や技に直接触れ、自分の夢や目標に向かって前進する児童生徒が育ちつつあるのではないかと思います。是非とも継続と拡大を期待します。

課題・方向性：予算削減の傾向にある中、本年度は現状を維持できた。児童生徒の文化的な活動に加え、地域（ひと・もの）に関連した体験活動推進の活性剤となっている。町学校教育基本方針の柱の1つであり、各学校の取り組みを検証していくことで、効果的な運用を図る必要がある。

1 2. 学力体力判断力UP 事業

目的：町学校教育推進の柱である「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の育成理念に基づく各学校の計画的・継続的な実践研究を支援する。

内容：知・徳・体の調和を図り心身ともに健全な児童生徒の育成を目指す各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本町の児童生徒の学力は全国レベル以上にあるとのこと、教育委員会並びに教職員の長きにわたる熱心な取り組みの結果であり高く評価できると思います。経費支出を各校に委託することにより、各校がそれぞれ独自の方法を以て知力、体力、徳力を高める取り組みをされています。各校が特色を打ち出す為の原動力であり、本町教育方針の大きな柱ですので、引き続き物心両面の力強い支援をお願いします。

課題・方向性：予算削減の傾向にある中、本年度は現状を維持できた。各学校独自の実践研究を支援し、本町の教育水準を全国レベル以上に引き上げてきた生命線である。また、特別支援を要する児童生徒の増加に応じて、介助・個別支援等の人的補助への活用について、今後各学校と当職の間で検討していかなければならない。

1 3. 教材備品等の調達

目的：各教材及び図書等を整備し、児童生徒がよりよい環境の下で学習に励み学力の向上を

図る。

内容：学校からの要望により図書及び教材等を整備する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：近年の IT 関連機器短サイクル化の現状に則した運用をされています。また楽器の購入なども継続していただいで学芸両面の充実のために、各学校で必要性や効率性を慎重に検討し、今後とも時流を見極めて柔軟かつ適切な整備をお願いします。

課題・方向性：教材備品については年々デジタル化が進みデジタル関連製品が導入され整備されている。しかし、高性能の上位機種が開発が早くその対応について懸念される。今年度においては買い替え等で高額なものでは楽器類が多かった。

14. 通学バス運営事業

目的：学校の統廃合に伴う通学時間の短縮手段として各通学区域に運行を行う。

内容：通学バス6台（旧志賀野小区域・旧柴目長谷分校区域・旧真国小区域・旧上神野小区域・旧国吉小区域・旧長谷小区域）・マイクロバス1台（各学校の校外授業・行事等）で運行を行っている。

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：定期的な車両の更新、安全運行の為に車両整備、運転手の高齢化対策等、今後の手数増大が懸念されます。適正価格での完全民間委託などは検討できないでしょうか。

課題・方向性：5～10年先には、老朽化に伴うバス車両の買い換え、運転手の高齢化に伴う新しい運転手の確保等が必要となる。

また、今後の児童生徒の減少に伴い、車両サイズの適正化及び効率のよい運行ルートの改正が必要であり、更には安全な運行及び適正な車両管理等の質の向上が望まれる。

15. 町民一斉清掃事業

目的：子どもから大人まで、地域のみんなで力を合わせ、自分たちの町を自分たちの手で美しくする。

内容：毎年5月と10月の第3日曜日に行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：町民一斉清掃は、町をきれいにするという意識を高めるとともに、地域交流の機会にもなっています、継続を望みます。町民の生活の多様化に鑑みて地区毎の実施日を年度早々に決定して周知するようには如何でしょうか。

課題・方向性：清掃は町内全域が同じ日でなく以前より定められている地域もあり、同じ地域の人達がみんな町をきれいにすることの声かけ運動をしていく。

16. 更生保護女性会

目的：保護司の協力機関として女性の特性を生かし、保護司の行う保護観察に協力して、更生保護思想を普及し世論の啓発をもって地域の防犯に努める。

内容：町民の愛の協賛金のお願い・防犯ブザー配布・啓発資料作成・小中学校花時計及び公民館花植えなどの活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：毎年、通学合宿のお世話をいただくなど子ども達も大変お世話になっています。その他にもボランティア活動で幅広い事業を支えていただいています。今後とも引き続き活発な活動をお願いします。

課題・方向性：会員の高齢化に伴い、新規会員の勧誘等を図る。ミニ集会については今後地域のニーズに合った活動内容を検討していく。

17. 子ども祭り

目的：子どもたちに創り出す喜びと仲間とのふれあいの大切さを体験する。

内容：児童（341人が参加）が各コーナーに分かれて消しゴム粘土、ジャンボシャボン玉、キーホルダー、もちつき、スライム、飛行機、パン、マガタマなどの作成と陶芸教室を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：お世話してくださる方にはご苦勞をおかけしますが、仲間とふれ合いながらの物づくりは子どもにとって大変楽しい活動ですし、豊かな心育てにもつながります。今後も活動内容を創意工夫しながら継続していただきたいと思います。お世話をしてくださる大人の姿を子どもたちに見せることも大切な教育だと思います。

課題・方向性：子どもたちのニーズに合うよう、楽しく遊べるコーナーの創設とみんなが参加しやすい祭りを考えていく。

18. 町校長会教頭会

目的：町学校教育基本方針の重点目標「校風の樹立」の具現化及び県教育委員会との連絡調整を図る。

内容：事業実施にあたる留意点等の周知並びに各学校教育活動の見直しと改善をすすめるための情報交流を図る。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：町内各学校間と教育委員会の情報伝達、連絡調整のための大切な事業です。継続実施をお願いします。

課題・方向性：開催時期主催は校長会・教頭会であり、開催についてはそれぞれ独自に計画されているため、各課・センターの事業実施時期との調整は難しい。校長会は総務学事課・生涯学習課担当が毎回参加、教頭会は必要に応じて総務学事課担当が参加している。各学校の取組交流を起点として、各管理職のリーダーシップを発揮した相乗的な改善を期待したい。

19. 特別支援学校通学補助

目的：障害のある児童生徒の特別支援学校への就学特殊事情にかんがみ、通学援助をすることによって、保護者の負担軽減を図ることを目的とする。

内容：紀北支援学校通学者9名・和歌山ろう学校通学者1名 計10名の補助を行った。

判定： 4 今後の方向性： 廃止

評価委員の意見：国の補助内容と重複しており、同様の補助を他の市町村では実施していないとの事ですので制度廃止の方向性になるのかと思います。しかしながら受給者は既得権意識を持っている可能性がありますので、慎重に事情説明の上制度改廃に取り組んでいただきたいと思います。

課題・方向性：同様の補助を国が行っているので、今後継続するかは内容を点検し検討する必要がある。

20. 緑育推進「元気な森の子」事業

目的：和歌山県の豊かな森林や林業、環境問題への関心を高め森林の果たす役割や山村における伝統工業を体験する。

内容：県補助事業を受け、森林観察や間伐体験などを行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：豊かな自然の中へ出かけての貴重な体験事業であり、県の事業をうまく利用しての取り組みは評価できると思います。より実りある事業にしていきたいと思います。

課題・方向性：環境資源の大切さを学び、環境問題に関心が持てるよう、今後も継続的に実施していく。

21. 子ども見守り隊事業

目的：各小学校において、子どもが安心して登校できるようにボランティアで見守る活動を行っていただいている方々の活動をサポートする。

内容：地域関係者・学校関係者が、登校時に各地域で声かけを行い子どもの安全を見守った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子どもたちの安全を確保するとともに、子どもたちとのふれあいの機会になっています。各団体で見守る場所や日については分散していただくのはどうでしょうか。下校時についても可能な人から子どもたちに声かけをしてはどうでしょうか。

課題・方向性：下校時の見守り隊組織づくりを検討していく。

22. 補導・夜間補導事業

目的：紀美野町に住む子どもたちが不良行為や問題行動の段階で、子どもに対して適切な助言や指導を行い、非行を防止する。

内容：野上八幡宮祇園祭や、きみの夏祭りでの補導その他にも、夏休み夜間補導5回子ども

たちの集まりやすい場所を重点に補導活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子どもが減少する中で非行防止も然ることながら、イベント時には子ども達との親睦の意味をも帯びてきている事業であると思います。子ども達の集まる場所も時とともに変化しており、子ども達の動きを把握した上での事業実施も検討を要するのではないかと思います。今後も地域一体となった補導活動をお願いしたいと思います。

課題・方向性：地域や関係機関と協力し、非行防止への啓発活動を重点に行う。問題行動・不良行為など起こした子どもについては進学先、就職先の追跡を行って見守っていく。

23. 町誌編纂

目的：旧美里町の郷土について、文化遺産を記述し先人の遺跡資料とするものである。

内容：「史料編Ⅰ」に続く中世・近代と明治以降の現在史料として「史料編Ⅱ」のまとめを作業中、平成23年12月度完成予定。

判定： 3 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：歴史を記録し保存することは大変意義のあることでありましたが、併せてこの事業の中で、町の文化財保存や歴史を見つめる活動を受け持っていた面もあったように思います。町誌編纂が終了した後もこの面についての今後の継続をお願い致します。

課題・方向性：今回の作業を持って、美里町誌編纂事業を終了する。

24. 小中学校学習推進事業（ICT・電子黒板）

目的：学校におけるICT環境整備の目標達成として教育用テレビのデジタル化・校務用コンピュータ教員1人1台・教育用コンピュータ児童生徒3.6人に1台・全ての普通教室に校内LANを整備する。

内容：電子黒板の購入・3中学校1校につき各1台配備 コンピュータ整備・教育用コンピュータ（小学校27台・中学校11台）校務用コンピュータ（小学校28台・中学校23台）を整備した。

判定： 3 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：近年のIT関連機器短サイクル化の現状に則した運用をされています。また楽器の購入なども継続していただいで学芸両面の充実のために、今後とも時流を見極めて柔軟かつ適切な整備をお願いします。

課題・方向性：今年度で国の事業が終了したため終了とする。

生涯学習

1. (生涯学習) 社会教育事業

目的：生涯学習を展開するための計画や推進を図る。

内容：時代の変革に対応した生涯学習の成果をあげるため、町づくりは人づくりという理念を基に「紀美野町生涯学習振興計画」を作成し社会教育委員会（10名）の意見をいただきながら、それに基づき、現状に即応した具体的な実施計画を立て、社会教育指導員と共に企画運営に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：紀美野町生涯学習振興計画を策定の上、文化面・スポーツ面、公民館活動等多彩な事業を実施され、大きな成果を上げていると思います。「学習」の語の出典である「論語」の精神に立ち、学び且つ習う（繰り返し復習し実践する）事業策定を引き続きお願いしたいと思います。

課題・方向性：生涯学習の今後の展開について社会教育委員と共に計画を進めていく。紀美野町民歌、紀美野音頭を幅広く用いて町民に馴染んでもらえるよう積極的に活用して行きたい。

2. 町PTA連合会

目的：町内の園児、児童、生徒の安全と健全育成を願い連携と情報交換を行う。

内容：町内単位PTA及び保護者が協力して研修、講演会の開催する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：研修会を町民大学講座との共同開催とするなど工夫して実施されています。町内の全保育所、小中学校が参加する単位PTAと子どもたちの保護者・祖父母・地域住民が一堂に会して研修する機会がもてることは意義深いと思います。研修、講演会にもある程度まとまった予算が必要となるので、広い参加を呼びかけながら今後も継続できるよう支援をお願いします。

課題・方向性：今後もより連携して活動を行う。

3. 文化祭

目的：地域に根ざした文化活動の推進と文化に親しみ学びの機会とする。

内容：住民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるため日頃の活動の成果を発表する場として中央公民館・文化センターにおいて実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：練習の成果や作品をみんなに披露できることはサークル活動をしている者にとって大きな励みになり活動の活性化になっています。本町では会場が分散するデメリットを抱えていますが、両会場共に活発な展示、発表がされるように今後共支援をお願いしたいと思います。

課題・方向性：11月3日の文化の日を利用して開催していきたい。

4. 文化協会展

目的：町内の文化団体相互の連絡を密にし、郷土文化の発展を図り、明るい町づくりに寄与する。

内容：24団体（会員数321人）が加入し、春の文化協会展、ふれあいステージの開催、研修を実施するなど文化性の高い町づくりに貢献した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：成果発表の機会が春にも設けられているのは、サークル活動者にとって励みになっていると思います。文化性を高める事業として評価できると思います。

課題・方向性：文化協会加入者の高齢化を防ぐ対策として、若年層の加入が必要である。

5. 町民大学講座

目的：町民の教養と知識を高め、文化の向上を図る。

内容：6月篠原菊紀「脳にとって必要なこと」・前川浩美「夢見る力を信じて～ともに生きる未来を～」、11月柳生真吾「自然の恵みと暮らす」、3月北畑英樹「子育てにもっと笑顔と笑いを」を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：年間開催の内1回を町PTA連合会との共同開催とされ、他に1回を人権意識啓発テーマとされており、いろんな分野の著名な講師を招聘しての講演会は町民から好評を得ています。他地域に誇ることのできる事業であると思います、今後も魅力ある講座を企画していただきたいと思います。

課題・方向性：今後も住民のニーズに合った講師を招き講演会を実施していく。

6. 公民館活動

目的：地域の生涯学習の核となる施設としてサークル活動の場として文化振興と住民相互の交流の場となるよう推奨していく。

内容：中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館の3公民館が、町民の生涯学習活動の実践をはじめ、文化活動の拠点としてその機能を発揮している。学習内容の多様化に伴い、公民館活動が盛んになり、年々サークル数が増え、夜間は部屋数が不足している現況であるが、学習の場、交流の場となっている。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：それぞれの教室で多様な活動が自主的に進められ、お互いの親睦を深めるとともに健康増進を図っていると思います。参加者が固定化・高齢化しているので、新たな入部者・若年層の勧誘が各サークルの課題だと思っています。

課題・方向性：講座・サークル活動の場として公民館が大いに活用されている。今後、新しい講座やサークルへの育成と生き甲斐を見出せる場づくりが必要となってくる。

7. 花いっぱい運動花苗配布事業

目的：多様化する社会に対応するため、心の豊かさと親睦の輪を広げ「心ひとつに町づくり」を目標に取り組む。

内容：町内の道路や公共施設に各種団体を中心に花の植え付けや管理を委託した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：花苗配布事業を利用して公共施設への植え付けや、区長を通じて道路への植え付け、加えて学校と連携しての植え付けなど各地区で環境美化に努められており、きれいな花壇を目にしてとても心が和みます。町に潤いを与えてくれています。今後とも配布をしていただきたいと思います。

課題・方向性：管理協力団体の高齢化等により、植え替えすることのいらない植栽も視野に入れて検討が必要である。

8. 家庭教育

目的：多様化する社会環境の変化に対応するため家庭教育の推進を図る。

内容：就学前の児童を対象に福祉保健課、保育所、教育委員会の情報交換の場として「はぐくみ会」を定期的に行っている。各部署と連携の基、紀美野町支援センターにおいて、家庭教育学級と称してお母さんと子どものふれあいの場づくりとして「ベビーマッサージ体験教室」、「ブックスタートとワークショップ」を行い絵本の読み聞かせと日頃の子育ての情報交換の場づくりなどの学習を行った。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：就学前の親子を対象とした「親子でのふれあい体験」事業は大変評価出来ると思います。保健福祉課管轄のはぐくみ会と連携し支援センターを拠点として活発に活動されています。旧美里地区からの参加も多く好評を得ています。参加されていない、或いは交通事情等で参加できない親子へのフォローが課題であると思います。今後もより充実した学習の場にしていただきたいと思います。

課題・方向性：はぐくみ会と連携しながら支援センターを拠点として推進していく。

9. 高齢者教育

目的：高齢化社会における生きがいつくりを重点に学習意欲を向上させる。

内容：地域サロン活動団体の活動の場づくりとして、子ども達を対象に中央公民館においてスポーツ、料理、手芸等に指導者として参加（参画）する場づくりを行った。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保健福祉課管轄の地域サロン参加の高齢者にも協力を得て実施されています。水曜日のふれあいルームの日を活用するなどして高齢者が子ども達に教える事を実践されていることは大変結構なことであると思います。

課題・方向性：保健福祉課において地域での健康づくり、生きがいつくりに取り組んでいる「地域サロン活動」が定着化してきているため高齢者の参画できる場を設け学習意欲が増すように連携を図っていく。

10. 児童・生徒絵画展示

目的：展示することにより子どもの制作意欲を高め子どもの励みとなる。また、作品の展示により潤いのある庁舎にする。

内容：町内各保育所・小学校、中学校の児童生徒の絵画を役場本庁・美里支所・中央公民館・文化センターにおいて4ヶ月毎に額装して展示を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：全児童の作品が額装されて展示されることが子どもたちや保護者にとって大きな励みとなると思います。他市町村では見られないユニークな事業であり、今後も是非継続していただきたいと思います。

課題・方向性：好評を得ているので今後も実施していきたい。

11. 人権教育事業

目的：人々は生まれながらにして固有する人権を護る精神にたつて差別や偏見を無くす活動を通し、明るい社会の実現に寄与する。人権尊重の精神に徹し、身近な生活における人権に対する感性を磨き、人権意識の高い町づくりを行う。

内容：関係の各行政機関、各種団体が連携した「紀美野町人権委員会」が中心となり各区会と協力し、紀美野町を5ブロックに分け地域別研修会を開催するなど啓発に努めた。また、人権教育、啓発を総合的に理解し、各々のセクションでも主体的に発揮できるよう、議会議員、役場関係職員、町内企業・事業所を対象に研修を行った。啓発冊子「きみの気づき5」や人権パンフレットを利用し、保育所、小中学校、各種会議、地区懇談会等の際に配布し、研修資料とした。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：昨年度の課題であった町内企業や事務所対象の研修会が実施されたことにより成果が上がっていると思います。昨今「人権問題」の定義する範囲はとても大きくなっており、子どもの虐待や高齢者の虐待、個人情報の問題等新しい人権問題も増えてきています。町民大学講座においても年1回は人権関係のテーマを設定されていることは大変結構であると思います。

課題・方向性：仕事や家事で学習会や研修会に参加できない対象者への啓発のあり方や、企業・事業所に対しての人権教育・啓発の方法等気軽な参加を地域人権委員と共に検討し呼びかけ推進したい。

12. 放課後子ども教室推進事業

目的：子ども達の放課後の安全・安心な活動拠点として、地域の協力を得て子ども達と共に勉強やスポーツ等に取り組み、心豊かで健やかに育む環境づくりを推進する。

内容：中央公民館と文化センターに「ふれあいルーム」を設置している。毎週水曜日には、絵本の読み聞かせ、工作、スポーツなどプログラムを決めて、学習活動を行い、放課後の子どもの居場所として取り組んだ。

町内小学校4年生以上を対象に中央公民館を拠点として2泊3日の通学合宿を開催し、計24名の児童が参加した。児童たちは集団生活を通し、周りとの協力することや、家族

に感謝することについて学び、地域のボランティアとの交流も深めることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：全児童対象の居場所づくりということで大変意義ある事業だと思います。保護者の就労環境の変化に伴い今後益々必要とされると思います。実績を重ねてきた通学合宿も貴重な体験の機会ですので、ふれあいルームと同様今後の運用の中で最適な形態を形成していただきたいと思います。

課題・方向性：ふれあいルームについて、スクールバス通学児童及び小規模校児童の対応が課題となってくる。通学合宿については参加希望者を最大限参加できるように配慮し他校の児童との交流も考えて事業展開を図る。

13. みさと天文台事業

目的：星を学習するという側面の活動だけでなく、紀美野町の財産のひとつである美しい星空を楽しみ、心豊かな生活につなげられるよう、子どもから大人までを対象にした幅広い活動をする。

内容：夜間の星空観察会だけでなく、日中でもイベントを定期的に行っており、天文教室等では、その時々の特ピックスを取り上げる講演形式のものなど、様々なアプローチで星空や自然に触れるイベントを行った。様々な天文現象の折には臨時に観察会を開催し、その時にしか見ることのできない現象を一人でも多くの方に提供できる機会を設けた。また、平成21年度に導入されたデジタルプラネタリウムを定期的に投影し、日中や悪天候でも星空を体験していただく機会を設けている。初年度は、1年間で1,500名を超える方にご覧いただいた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：導入されたデジタルプラネタリウムを活用して、積極的に出張講座に出かけておられます。受け身でなく、打って出る活動が特色となりつつあるように感じます。今後一層和歌山大学及び国立天文台との連携を強化され専門性をさらに高めていただきたいと思います。駐車場からの歩道も整備していただいて環境も良くなりつつあります

課題・方向性：和歌山大学及び国立天文台との連携により情報交換が積極的に行われている。今後もより一層、積極的な情報交換や活動を行い天文台をアピールしなければならない。

14. 文化センター事業

目的：心豊かな文化振興の実現を図り町民の教養と文化性を高め豊かな感性を磨くために文化振興事業に取り組み専門性の高いホールを有効に活用する。

内容：文化振興事業としてはきのくに舞台芸術支援事業「笑福亭仁鶴独演会」、宝くじ文化講演「吉本バラエティショー」、円ひろしアコースティックコンサートを実施した。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：専門性の高いこのホールのお陰で質の高い芸術文化に触れる機会が増えたことは町民にとって大きな生きがいになっています。このホールの良さが広く音楽家の間で認知されるよう望みます。今後とも自主事業を継続しながら、補助事業は引き続き

積極的に招致してこのホールの活用に努めていただきたいと思います。

課題・方向性：住民のニーズに応えられる文化振興事業の取り組みと専門性の高いホールの有効な活用に努める。

15. 地域共育コミュニティ推進事業

目的：地域ぐるみで子どもを育てながら、大人も共に育ち、育て合うことができる地域社会づくりを目指して、学校・家庭・地域と連携を図っていく。

内容：全中学校区において地域共育コーディネーター6名の協力の下、定期的に交流会をもち、情報交換を行いながら、学校運営に地域の方々の参加を推進している。

また、児童生徒が地域の清掃やお祭り等に参加し、地域の担い手、地域の一員である認識を促すとともに、地域との交流活動に取り組んでいる。

町内の高等学校においても施設を地域に開放して交流の場にするため積極的に取り組んでいる。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：地域と学校、学校と保育所といった元々異質のコミュニティに属していたものをこの事業で統合的に巻き込むことで、お互いにメリットのある新たなものが（つながりや連帯感）生まれてきました。さらに学校に対して敷居が高いと感じる意識がこの事業のおかげで随分緩和されたと思います。今後も3年間の成果を活かし、地域と各学校・保育所が連携を深め、より充実した取り組みになるよう支援をお願いいたします。

課題・方向性：学校と地域が密接に関わっていくために、学校に出入りできる環境づくりや意識づけが学校側にも、住民側にも理解できるよう、指導や啓発が必要である。

16. パークゴルフ・ゲートゴルフ事業

目的：生涯を通じて生き生きとした充実のある生活を営む一つの方策としてスポーツを通じた活動を展開する。

内容：パークゴルフ

*春大会（6月、参加者：144名）*夏大会（7月、参加者：108名）

*秋大会（11月、参加者：118名）*チャンピオン大会（3月、参加者：158名）を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：多くの住民が生き生きと活動されているのを目にします。町内外のふれあいの場になっており、また三世代交流の場としても、今後より一層多くの方が参加されることを期待します。

課題・方向性：後継者の育成及び活動の拡充対策が必要である。

内容：ゲートゴルフ

*全国大会（10月、参加者：45名）*県大会2回開催、（5月・11月、参加者合計：321名）*チャンピオン大会（3月、参加者：68名）を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：紀美野町発信の事業として好評を得ています。さらにより一層多くの住民が参加され、生き生きと活動され町民のふれあいの場になっていくことを期待します。

課題・方向性：ゲートゴルフ発祥地としての啓発活動と後継者の育成が必要である。

17. ふれあいマラソン大会事業

目的：走ることをとおして、紀美野町の美しい自然や文化、そして人とふれあうことで、紀美野町を全国にPRすると共に、人々の健康増進と交流を図り、心身の健全育成と相互の親睦を推進する。

内容：アップダウンに富んだロードレースのクォーターマラソンとパークゴルフ場の芝生の上を走るクロスカントリーレース、また誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、子どもから高齢者まで幅広く参加することができるため町内はもちろんのこと町外、県外からも多くのエントリーがあり紀美野町を対外的にPRすることができた。また通算10周年記念大会として取り組んだ。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：10周年を迎える「ふれあいマラソン」は、町外や県外からも参加者が集まり年々参加者が増加しており大いに紀美野町のPRになっていると思います。7月から始まる準備・9月からの受付・当日の運営・後片付け等々、事務局の苦労は並大抵でないと思いますが、紀美野町自慢の素晴らしいイベントであり十分に成果が上がっていると思います。町内のスポーツ活動活性化の大きな推進事業として今後も継続していただきたいと思います。

課題・方向性：多くの選手の参加やボランティアのお手伝いにより運営ボランティア意識の高揚と紀美野町のPR及び町外・県外の方々との交流をより一層深めたい。

18. スポーツ少年団活動事業

目的：次の時代を担う青少年の健全育成を推進するため心身と体力の向上を図る。

内容：スポーツ少年団活動団体〔野球、バレーボール、剣道、サッカー、新体操、空手、少林寺拳法、バドミントン、陸上、バスケットボール〕が活発に活動できる支援と施設の充実に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：陸上とバスケットボールが新規に加入されて、益々の活躍を期待したいと思います。各団体指導者の方の献身的な御指導には頭が下がります。

課題・方向性：児童の減少による新入団生の確保に努めなければならない。

19. 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

目的：スポーツの振興と青少年の健全育成を図ると共に紀美野町の活性化に資する。

内容：町内小・中学生の選抜で指導者と共に8月初旬から練習を開始、各学校において長期

にわたり練習を行い4回の試走のもと2チームが出場した。結果2年連続の第6位入賞を果たした。

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：毎年継続されて10周年を迎えられたとの事です。大会の前年8月から早くも練習を開始しているのは紀美野町だけだと思います。練習の成果を遺憾なく発揮されて、翌年2月の本番には好成績を残しておられます。監督・コーチをはじめ関係各位、教育委員会など一丸となつての取り組みの成果であると思います。来年のさらなる活躍を期待したいです。

課題・方向性：今後、対象児童・生徒数が減少する中で出場選手の確保に努めなければならない。

20. スポーツ・レクリエーション大会

目的：町民相互の健康増進と親睦を図り、スポーツの発展と文化の向上に資する。

内容：スポーツ公園、農村総合センターにおいて、カローリング、ホッケー教室及びデモンストレーション試合、ゲートゴルフ・ソフトバレーボール・ペタンクを開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：カローリングやホッケーといった新しい種目を追加されて参加者、参加年齢層の拡大を図っておられると思います。町民相互の親睦を深めると共に健康増進を図る事業で町民も楽しんで意欲的に参加していると思います。今後もより多くの町民が参加できるような種目の検討をしつつ継続していただきたいと思います。

課題・方向性：今後、住民のニーズに合ったスポーツ種目を増やして幅広い年齢層の人が参加できるよう取り組んでいきたい。

21. ナイター走ろう会

目的：町民のスポーツの振興、青少年の健全育成と体力の向上を目指す。

内容：スポーツ公園において7月・8月・9月と合計3回実施し、種目は100m、1000m、2000m、3000m、5000mと5種目行い好評であった。また、空き時間を利用してホッケー体験教室を人工芝グラウンドにおいて開催した。

判定： 4 今後の方向性：継続

評価委員の意見：コースの見直しで周回遅れの問題を解消されたり、記録証を導入して達成感を与えるなど工夫して効果を上げておられます。

ホッケー体験教室も併せて実施されるなど積極的に取り組んでおられると思います。

課題・方向性：コース、記録証発行等の見直しを行い、スムーズに実施することができたので、今後も実施していきたい。

22. ホッケー推進事業

目的：2015年に和歌山県において国民体育大会が開催され、紀美野町スポーツ公園人工芝

グラウンドがホッケー競技のメイン会場となることから、町民にホッケーに親しむ機会づくりと普及を図っていく。

内容：体育指導員を対象にルール講習と体験学習、ナイター走ろう会開催日に空き時間を利用して体験教室を行った。

判定： 2 今後の方向性： 拡大

評価委員の意見：認知度は高いとはいえないので、ホッケーそのものに触れる機会を増やしてゆく必要があると思います。国体開催を視野に入れてホッケーのサークルを設立するなど本腰を入れた事業推進が必要だと思います。

課題・方向性：ホッケーは、まだまだ人々の身近なスポーツとして浸透していないため興味を示す方向づくりを模索しサークルが発足できる環境を推進していく。

23. 町広報誌「ふれあいネット」

目的：生涯学習の取り組みやできごとなどを町民に広く広報する。

内容：毎月その時の文化事業やスポーツ事業に関するイベントの案内や生涯学習関係のトピックスやお知らせ等を「広報きみの」へ掲載する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各団体の活動はこの広報誌によって知る町民が大多数であると思います。活動内容を町民に知らしめる重要な役割を担っているので引き続き充実した内容を期待したいと思います。

課題・方向性：掲載する内容を吟味しながら今後も取り組んでいきたい。